

# 附表

耐震診断の方法の名称		構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性		
		I	II	III
		大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。	大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。	大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。
A	建築物の耐震診断及び耐震改修の実施について技術上の指針となるべき事項 第1 第二号に定める建築物の耐震診断の方法	$Is < 0.3$ 又は $q < 0.5$	左右以外の場合	$0.6 \leq Is$ かつ $1.0 \leq q$
B	(一財) 日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版)	$Is / Iso < 0.5$ 又は $CTU \cdot Sd < 0.15 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq Is / Iso$ かつ $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq CTU \cdot Sd$
C-1	(一財) 日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める	$Is / Iso < 0.5$ 又は $CTU \cdot Sd < 0.125 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq Is / Iso$ かつ $0.25 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U \leq CTU \cdot Sd$
C-2	「第2次診断法」及び「第3次診断法」 (2009年版)			
D	(一財) 日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」 (1996年版、2011年版)	$Is < 0.3$ 又は $q < 0.5$	左右以外の場合	$0.6 \leq Is$ かつ $1.0 \leq q$
E	(一財) 建築保全センターによる「官庁施設の総合耐震診断基準」	$Qu / \alpha \cdot Qun < 0.5$	$0.5 \leq Qu / \alpha \cdot Qun < 1.0$	$1.0 \leq Qu / \alpha \cdot Qun$ かつ $G Is < 1.0$
				$1.0 \leq G Is$
F	「屋内運動場等の耐震性能診断基準」	$Is < 0.3$ 又は $q < 0.5$	左右以外の場合	$0.7 \leq Is$ かつ $1.0 \leq q$

(※) 震度6強から7に達する程度の大規模の地震に対する安全性を示す。

いずれの区分に該当する場合であっても、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限り、震度5強程度の中規模地震に対しては損傷が生ずるおそれは少なく、倒壊するおそれはないとされている。

(※) 表に掲げる補正係数は、備考欄に記載がある場合を除き、 $Z=0.8$ 、 $G=1.0$ 、 $R_t=1.0$ 、 $U=1.0$ として算定している。